

## 第25回 第2章 現代の経済

### 第3節 日本経済の発展と産業構造の変化

# 日本経済のあゆみ

講師  
篠田健一郎

#### 学習のねらい

今日の私たちの経済生活を理解するうえで、第二次世界大戦後の日本がどのように経済社会を築いてきたかを知ることが重要です。1940年代半ばから1990年代の初めまでを、復興から高度経済成長、オイル・ショックから安定成長、バブル経済からその崩壊、という3つの特徴ある時期に区分して日本経済の特徴を理解しましょう。

調べておこう  
覚えておこう

プラザ合意／低金利政策／経済復興／高度経済成長／  
バブル景気／経済のサービス化・ソフト化／経済民主化

※下記の空欄 \_\_\_\_\_ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

#### POINT 1

### 経済再建から高度成長へ

1945年に第二次世界大戦が終わり、連合国に敗れた日本は、多くの国富を失いました。第二次世界大戦後の日本は、まず、① \_\_\_\_\_ から始まりました。復興の基本整備の役割を果たしたのが② \_\_\_\_\_ です。

経済民主化は財閥解体と農地改革と労働民主化の3つです。日本は限られた資源や資金を経済の中心になる分野に集中させて復興を図ります。1950年から始まった朝鮮戦争がもたらした特別調達需要により、日本経済はよみがえります。1955年の『経済白書』によれば、日本経済は「もはや戦後ではない」と表現しました。

1950年代半ばから1970年代の初めころまで日本経済は好況と不況を繰り返しながらも順調な経済成長を続け③ \_\_\_\_\_ と呼ばれます。1年間の成長率が10%を超えるような景気拡大が続きます。

この③を達成できた日本国内の要因を考えると、(1) 企業の設備投資が盛んであったこと、(2) 設備投資が生産性向上につながったこと、(3) 設備投資資金を支えた国民の高い貯蓄率と間接金融、(4) 安価で豊富な若い労働力が供給されたこと、(5) 政府の産業保護政策があったこと、などがあげられます。

#### POINT 2

### オイル・ショック後の日本経済

1973年のオイル・ショックで、高度経済成長は終わり、安定成長に向かいます。オイル・

ショックによって、資源は有限であり高価なものであることが認識され、大量生産・大量消費の時代は終わったということが明らかになりました。経済は停滞しているのに物価は上がり続けるというスタグフレーションに見舞われます。企業は徹底した省エネ・省資源に努め、減量経営を試みます。国の経済政策としては、まず総需要抑制策をもってインフレを断ち切り、インフレが収まると景気拡大策をとりました。資源をたくさん使う素材産業中心から付加価値の高い加工組み立て型産業へと転換します。モノづくり中心の第二次産業中心の経済構造からサービス業などの第三次産業中心の経済構造に転換する<sup>④</sup> .....が進みました。産業構造の転換が実現したのです。

POINT 3

バブル経済とその崩壊

オイル・ショックを乗り切った日本経済は輸出を伸ばします。1985年のG5（先進5か国財務相・中央銀行総裁会議）で<sup>⑤</sup> .....が発表されて、円高に向かいます。円高になると日本からの輸出は振るわなくなりますから、景気対策として<sup>⑥</sup> .....を取ります。これにより、いわゆる「カネ余り」現象となりますが、物価は落ち着いたままでした。そして、土地の値段と株式の値段が上がり続けます。実体経済のおよそ3倍に膨れ上がったといわれます。これが<sup>⑦</sup> .....です。土地取り引きの規制や金融引き締めなどをきっかけにして、バブルははじけます。金融機関は貸したお金が返ってこないという不良債権を抱えて経営危機に陥ります。消費は低迷し、投資も低迷し、長い不況のトンネルに入ります。いわゆる「失われた十年」が始まりました。

.....

答え  
①経済復興 ②経済民主化 ③高度経済成長 ④経済のサービス化・ソフト化 ⑤アラブ首長国合作会議  
⑥低金利政策 ⑦バブル景気